

中学校 社会科 部会

部会長 福智町立金田中学校 校長 白石 俊幸
実践者 福智町立金田中学校 講師 内田 章太

1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める社会科教科指導の工夫

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

新学習指導要領での社会科の目標は、「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことである。その目標実現のために、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることが求められている。現代社会が、情報化や国際化により急激に変化し多様化している中で、これからの社会を担っていく子どもたちには、社会的事象を単なる知識として丸暗記するだけにとどまらず、知識を活用し、自分の考えを持つ力、またそれらをまとめ表現する力が必要である。以上の理由により、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることが必要であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

生徒を取り巻く家庭環境・教育環境も、必ずしも恵まれているとは言えない状況にあり、平成25年度の福岡県学力実態調査の結果によると、筑豊教育事務所管内の平均正答率は、県全体に比べ「知識」「活用」とともに、7ポイント近く低くなっている。また、県全体の「活用」に関する問題の平均正答率は、期待正答率を16ポイント近く下回っており、思考力に関わる社会的事象の特色をつかんだり、因果関係をとらえたりすることが苦手であると考えられる。

以上の理由により、生徒の思考力・判断力・表現力には課題があり、効果的に高めていく必要があると考え、本主題を設定した。

3 主題の意味

「思考力」とは、ある社会的事象がその他の様々な社会的事象とどのようにつながっているのかを推理し、追求する力であると考え。

「判断力」とは、社会的事象を様々な視点から見つめ、その社会的事象の価値に対する自分の考えを持つ力であると考え。

また、社会的事象に対する価値判断を行うためには、様々な思考活動で社会的事象を把握することが必要不可欠であるため、「思考力」と「判断力」は相互に作用しあうことで高まっていくと考える。

さらに、「表現力」とは社会的事象に対して思考・判断した結果を、文章等でまとめ、伝える力であると考え。

4 研究の目標

資料から読み取ったことともに自分の考えをもち、他者の考えとの意見交流を行う活動を通して、自分の考えを再構築させることで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

5 研究仮説

学習過程において、次のような手だてをとれば、思考力・判断力・表現力の向上につながるであろう。

- 資料やヒントカードをもとに、自分の考えをつくる活動に取り組ませる。
- 他者との意見交流を通して、自分の考えを再構築させる活動に取り組ませる。

6 研究の計画

(1) 単元名 幕府政治の改革と農村の変化

(2) 指導観

- 本単元は、「江戸幕府の成立と東アジア」という大単元の終末期にあたる単元である。学習指導要領解説社会編の(5)近世の日本の内容エには、「社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。」とある。内容の取扱いでは、『「幕府の政治改革」については、百姓一揆などに結び付く農村の変化や商業の発達などへの対応という観点から、代表的な事例を取り上げる。』とあり、その際、「財政の悪化などの背景や、改革の結果に着目させる。」と示されている。

近世社会を形成する江戸幕府が260年間にもおよぶ安定した政権を維持できたことは世界でも稀である。この江戸時代中期は、貨幣経済の広まりや生活文化の変化による支出増、度重なる自然災害による農作物の不作などの原因から幕府・藩ともに財政難に陥り、この財政難克服のための対策が行われてきた。

さまざまな改革をとおして、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことをつかませる。

また、小学校では、人物に視点をおいた学習が行われてきている。江戸時代に関する学習では、徳川家康や家光の働きを中心に江戸幕府の始まり、大名統制や農民の支配の様子を学んできている。中学校では、小学校の学習内容とあまり重複しないことを配慮し、各時代の特色をふまえながら、歴史の大きな流れをつかませる学習を展開することが重要である。生徒たちは、本時までに幕藩体制が確立してきたこと、商業の発達による貨幣経済の広がりや農村の変化を学習してきており、幕府の政権近世から近代へのつながりを考えさせる上でも重要な単元である。

- 本学級の生徒は、男子に活発な生徒が多く、積極的な発言も見られ、社会科の授業に対する関心も高い。しかし、学習の習得状況は十分ではなく、11月の学力分析テストの結果では、県の正答率との大きな差が見られた。特に歴史的分野の正答率は、地理的分野に比べ2.2ポイント低く、特に「時代の流れをつかむ」という小問の正答率が22%と低かった。また、社会的事象に対して自分の意見を持つことや比較して考えるといった点に課題が見られた。

既習事項を繰り返して知識の定着を図ることや社会的事象について視点をもとに自分の考えをつくらせるといった指導を行うことが必要である。

- 本単元の指導にあたっては、商業の発達による経済の変化や政治方針の転換、農村の変化など変革の様子を理解させることをねらいとしている。そのために、歴史の流れを重視した学習プリント、資料を活用した読み取り、視点にそった内容の考

察、意見交流などの言語活動を取り入れながら学習を進めていくことで、生徒の思考力、判断力、表現力を養い、学習内容の確かな理解と定着を図りたいと考える。

具体的には、まず、産業の発達や農村の変化による経済システムの変革の流れを、資料を通して理解させる。次に、幕府や藩が財政難に陥った様子をグラフをもとにとらえさせ、その対策を考えさせることで、当時の政治改革の経済政策を理解させる。最後に、政策の結果を百姓一揆の発生のグラフなどをもとに考えさせ、幕府政治が次第に行き詰まりを見せ始めていることを理解させたいと考える。

(3) 単元目標

○産業の発達や幕府政治の展開に対する関心を高め、意欲的に追究させる。

【関心・意欲・態度】

○産業の発達や幕府政治の動きとその行き詰まり、新しい学問・思想の動きなどから課題を見出し、時代の特色と変化を多面的・多角的に考察し、表現させる。

【思考・判断・表現】

○産業の発達と幕府政治の展開に関する図版、史料、年表、歴史地図などのさまざまな資料を読み取ったり、まとめたりさせる。

【資料活用の技能】

○安定した社会が産業の発展により次第に変化し、幕府政治が行き詰っていったこと、その中で学問や思想、文化に新しい動きが見られたことを理解させる【知識・理解】

(4) 単元指導計画

時数	教科書ページ	学習内容	学習のねらい	観点別評価基準
1 本 時	132	1 幕府政治の改革 ・ 綱吉の政治	○ 綱吉の政治改革が社会の変化に対する幕府支配の維持をねらいに行われていたことを理解する ○ 綱吉の政治改革が十分な成果を上げられなかった理由を考える	関心意欲態度 綱吉の政治改革の政策について、自分の考えをもととしている。 思考・判断・表現 財政難を克服する方法について、資料を基に考え、自分の考えを説明できる。
2	132 133	1 幕府政治の改革 ・ 吉宗の政治 ・ 田沼と定信の政治	○ 幕府政治の改革が社会の変化に対する幕府支配の維持をねらいに行われていたことを理解する ○ 幕府の政治改革が十分な成果を上げられなかった理由を考える	技能 江戸時代の政治改革を比較しながら、その特徴を表にまとめている 知識・理解 江戸時代の政治改革の背景にある商品経済の広まりによる社会の変動や政治のゆきづまりを理解している

3	134 135	2 農村の変化 と民衆の動き ・変わる農村 ・百姓一揆と打ち こわし	○農業が発達し、商品作物 の生産で農村が大きく変 化したことを理解する ○百姓一揆は、経済的圧迫 を主な原因とし、農民が生 活を守るために起こした ものであったことを理解 する	思考・判断・表現 百姓一揆や打ちこわしの発 生に関する資料を読みとり、 その当時の社会の様子と変 化を考察して説明している 知識・理解 貨幣経済の浸透による農村 の変化や農民の窮乏と、百姓 一揆や打ちこわし頻発とを 関連づけて理解している
---	------------	--	---	--

7 授業の実際

(1) 主眼

○徳川綱吉が行った経済政策のねらいとその影響について理解する

○仲間の考えと自分の考えを比較し、自分なりの経済政策についての考えを持ち説明できる

(2) 本時の指導観

江戸時代中期、なぜ幕府政治の改革が求められたのかについて、前時の復習を兼ねた学習プリントへの書き込みを通して理解させた上で、徳川綱吉の政策について考えさせる。特に、財政難に対する経済政策は今後の学習とも関連が深いため、小判への金の含有量の資料を基に考えさせる。「貨幣改鑄」がなぜうまくいかなかったかを理解したうえで、綱吉の政策に続く享保の改革・田沼政治・寛政の改革についての学習に活かせるようにする。

(3) 本時

平成26年1月31日（金） 第5校時 於 第1学年2組

(4) 準備

①教科書 ②学習プリント ③感想用紙 ④掲示ツール（小判） ⑤ヒントカード

(5) 展開

段階	配時	形態	学習活動・内容	具体的な手だて	評価の観点
導 入	5分	一 斉	1 前時の復習事項をプリントに記入する。 ・新田開発や農具・肥料の発達や産業の発展によって、商品経済が発達していったことを復習する。	・今後の幕府の改革の諸政策を理解させるために「改革」という言葉の意味を確認させる。	
	5分	一 斉	2 本時の学習の意義を理解する ・「改革」の意味を理解する		
めあて 徳川綱吉が行った政治改革について考えよう。					

ま と め	2 分	一 斉	7 幕府政治の改革は、以降も続いていくことを理解し、次回に見通しを持つ。	・綱吉以降、徳川吉宗・田沼意次・松平定信らの政治家が改革に挑むことを伝える
	3 分	一 斉	8 授業の感想を書く。	

8 研究のまとめ

(1) 成果

- 自分の考えをもつ場面において、視点を明確にしたこと（ヒントカードの提示）で、財政難の解決策について考えを持つことができた。
- 資料を用いて比較する活動を行う事で、社会的事象の理由を理解することができ、次時の授業に向けての見通しをもつことができた。

(2) 課題

- ▲基礎・基本の定着が十分でないため、一人一人が意見をもち、学級全員での意見交流にまで至らなかった。
- ▲自分の考えを再構築する活動で、他者の意見をもとに自分の考えを作り直す生徒の数が少なかった。

(3) まとめ

福岡県学力調査の結果からも知識、活用力の低さが顕著に見られる。社会科の授業づくりの場面において、単元を見通した基礎・基本の定着のための学習や思考場面を設定した学習などが求められている。基礎・基本の定着のためには繰り返しの学習が必要であり、思考力の育成のためには、視点を明確にした学習が必要である。とくに、比較する・分類する・類推するといった思考場面を設定することが重要である。

今後の授業改善に向けて、さらなる授業研究が必要である。